翔生（しょうせい）

Symbol Logomark　これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで親しみ易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野をもった経営者＝Youth, Energy, Generalist）を表しています。

発行　全国商工会議所青年部連合会
〒100-8306 東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03－3283－7487

編集　広報委員会

平成10年（1998年）3月号
通巻　第24号
（年2回　3月・8月発行）

今、まさにサバイバル時代

平成10年度商青連会長　吉本　博次

あの山一が11月22日、全国大会・徳島大会の直前、大き過ぎる会社のあっけ過ぎる経営破綻が報道されました。

「まさか、やっぱり」国民それぞれの思いは違っていても、日本経済の先行きに不安が増したことはまちがいないと思います。

戦後50数年を経て高度成長期・バブル期にあった体質からは大きく変貌しようとしています。今まで日本の経済社会を支えてきた、ノウハウやシステムがグローバル競争や世界的な環境の変化に通用しなくなってきているのです。

今、まさにサバイバル時代です。

日本経済がなさけない、中小・零細企業が経済社会の変化に的確かつ迅速に対応しなければこの時代を乗り切れないでしょう。今、体も中年に差し掛かり、規制緩和やビッグバンといったグローバルな問題や、新著種新業態の発生等がマスメディアに大きく取り上げられることでしょう。

そのような情勢の中、我々は自分の企業や事業の存続の為に積極的な対応を進める事が必要とされているのは勿論のこと、しかしその流れを読み違えれば、そこには混乱と、倒産がまっているのは明らかです。

こんな時代だからこそ地域の総合経済団体である商工会議所が地域のリーダーとして、その構成員である我々全国YEGが積極的にリーダーシップを取りバイタリティー溢れた活動を展開しなければなりません。

全国商工会議所青年部連合会（商青連）は、昨年度は年という節目の年を迎え、部構をさらに拡げ密にした「青生」をテーマに活動を繰り広げてきました。

16年前に全国に点在する商工会議所青年部を全国組織にしようじゃないか、と言う諸先輩方の思いは、まさに、出会いから連携に、連携から共生に、全国に広がるヒューマンネットワークを広げ、そして話かし・活用し、日本全国や地域にそして地域の活性化に役立てていこうとする熱き思いだったのではないでしょうか。この思いは商青連・YEGの最大の目的であり、また、目標でもあり大きな課題ではないでしょうか。

今、この厳しい時代、皆さんは「守り」にはいっていませんか。守ること、それはそれも大変難しく厳しいことかもしれませんが、こんな時代だからこそ、自分達の発展の為にワンステップアップした企業努力を望みます。そして地域の活性化の為に、熱き思いの一歩を踏み出して頂きたいと思います。

この、全国に広がるYEGのネットワークを大いに活用するこの機会に、ブラッシュアップした商青連活動を展開し、YEG相互の絆を強めていきたいと考えています。

商青連は全国YEG一人一人のメンバーの集合体です。一人のメンバーの積極的な活動を支援し、また、各団の情報の集積、発信の場となれるよう頑張っていくつもりです。

ご協力の程、宜しくお願いします。

そしてYEGネットワークを大いに活用し「共生」から「活性」に広がる様、ブラッシュアップした商青連活動を展開し、YEG相互の絆を強めていきたいと考えています。

商青連は全国YEG一人一人のメンバーの集合体です。一人のメンバーの積極的な活動を支援し、また、各団の情報の集積、発信の場となれるよう頑張っていくつもりです。

ご協力の程、宜しくお願いします。

■平成10年度役員のご挨拶■

平成10年度
商青連副会長
北島　重利

あの山一が11月22日、全国大会・徳島大会の直前、大き過ぎる会社のあっけ過ぎる経営破綻が報道されました。

「まさか、やっぱり」国民それぞれの思いは違っていても、日本経済の先行きに不安が増したことはまちがいないと思います。

戦後50数年を経て高度成長期・バブル期にあった体質からは大きく変貌しようとしています。今まで日本の経済社会を支えてきた、ノウハウやシステムがグローバル競争や世界的な環境の変化に通用しなくなってきているのです。

今、まさにサバイバル時代です。

日本経済がなさけない、中小・零細企業が経済社会の変化に的確かつ迅速に対応しなければこの時代を乗り切れないでしょう。今、体も中年に差し掛かり、規制緩和やビッグバンといったグローバルな問題や、新著種新業態の発生等がマスメディアに大きく取り上げられることでしょう。

そのような情勢の中、我々は自分の企業や事業の存続の為に積極的な対応を進める事が必要とされているのは勿論のこと、しかしその流れを読み違えれば、そこには混乱と、倒産がまっているのは明らかです。

こんな時代だからこそ地域の総合経済団体である商工会議所が地域のリーダーとして、その構成員である我々全国YEGが積極的に

平成10年度
商青連副会長（東地区）
六本木信幸

企回さ方を超える会員拡充の経営資源・経営情報の共有化をはかり、融合化をめざしていくところに新産業創出のカギがあると確信をしております。その為には、会員相互の理解と年会間の交流を通じ、地域連携事業を推進し、更なる交流の中からシンクできるものを抽出し、ビジネスチャンスを発見してゆきたい。

特別委員会の情報発信からYEGの持つ素晴らしさを体感できれば、このうえない幸福と考えております。

全国YEGの皆さん、楽しく、明るく、元気よく、伸びゆく大地にしっかりと足元を固め、歴史の船取りをして頂きましょう。

平成10年度
商青連副会長（中地区）
田口　元美

早速ご紹介はヤングリーダー研修と同注塾でたいへんおお話になりましたが、ありがとうございました。さて平成10年度は神戸港の「見える商青連」をとこに基本するためにインターネットのホームページやメーリングリストなどを活用し、全国のYEGのメンバーと商青連ホームページに情報が受発信できるシステムを構築したいと思います。来るべきデジタル情報社会に対応するYEGネットワークを構築して商青連の情報化を推進し、全国のYEGにがおいにリンクしあい情報共有から地域連携や事業連携に発展することを願っています。

平成10年度
商青連副会長（西地区）
松本　晴之

平成10年度、吉本会長のもとで、副会長（西東区担当）をさせて頂くことになりました。商青連はこの数年で、それまでの"連絡調整"としての役割から"事業"の展開へと変化して参りました。10年度も、今年度の大村会長よりの継続事業としてヤングリーダー研修や同業種委員会を行う予定にしております。どうか、全国のYEGの皆さんもこれらの事業へ積極的に参加され、ご自分自身の研鑽・会社と事業の発展へ導かれることを切望しております。よろしくお願い申し上げます。

平成10年度
商青連専務理事
東浦　右智

山形のまち・蔵のまち・新庄用台盆踊りのまち・湯のあるまち・東海ブロックは愛知県の手田YEGより出向いたします。商青連と全国各地のYEGとのパイプ役として、七日興連・市は和綱、全国ゆうプロック大会に青森・今治と日本列島縦断リおじゃましますが、今年度商青連は、16年目、インターネットのホームページや電子メールを駆使して新しい商青連のあり方を模索し、新情報受発信時代の到来に対応していきます。ちょっぴり機械音痴な団塊の世代のおじいさま方にも分かりやすい事業活動に努めます。宜しくお願い申し上げます。

平成10年度商青連役員（敬称略）

会長	吉本博次	奈良（奈良）
前期会長	大村晴林	大宮（埼玉）
副会長	北島重利	徳島（徳島）
	六本木信幸	伊勢崎（群馬）
	田口元美	名張市（三重）
	松本晴之	高知（高知）
	東浦右智	平田（愛知）
専務理事	福田剛	
ブロック代表理事	沼澤純男	登別（北海道）
	千葉富士夫	吉川（宮城）
	澤谷一郎	浦和（埼玉）
	須坂義雄	長野（長野）
	豊田剛	豊川（愛知）
	伊藤正幸	鯖江（福井）
	浦野四郎	小野市（山口）
	河村雅俊	
	野村裕	高知（高知）
	又吉正恵	高岡（沖縄）
総務委員長	福田宏史	久留米（福岡）
企画委員長	山本高巳	宗像（福岡）
研修委員長	伊藤孝一	松江（島根）
広報委員長	河原田高寿	宝塚（兵庫）
特別委員長	佐々木正充	秋田（秋田）
顧問	加藤紘史	八尾（大阪）
	吉田顕男	敦賀（福井）
	高橋弘雄	高砂（兵庫）
	佐々木正光	今治（愛媛）
	石澤駿	高岡（富山）
	大平駿	橋本（和歌山）
	佐々木正光	高知（高知）
	永井隆	松江（島根）
	目下野隆	宝塚（兵庫）
	村田秀行	西下（福井）
	平井成一	阪出（香川）
	敦賀寺	岡山（岡山）
	深山博己	今治（愛媛）
	山本吉己	久留米（福岡）
	宗像弘雄	伊万里（佐賀）
	東田隆彦	三戸（青森）
	新津新治	長崎（長崎）
	遠藤好克	熊本（熊本）
	長谷川栄	佐伯（大分）
	宮下繁一	宗崎（宮崎）
	牧野隆一郎	鹿屋（鹿児島）
	堀越久美	
監事	白井修	七尾（石川）
	古川博	阿南（徳島）

	加藤紘史	京都（京都）
	吉田顕男	八尾（大阪）
	高橋弘雄	高砂（兵庫）
	佐々木正光	今治（愛媛）
	石澤駿	高岡（富山）
	大平駿	橋本（和歌山）
	佐々木正光	高知（高知）
	永井隆	松江（島根）
	目下野隆	宝塚（兵庫）
	村田秀行	西下（福井）
	平井成一	阪出（香川）
	敦賀寺	岡山（岡山）
	深山博己	今治（愛媛）
	山本吉己	久留米（福岡）
	宗像弘雄	伊万里（佐賀）
	東田隆彦	三戸（青森）
	新津新治	長崎（長崎）
	遠藤好克	熊本（熊本）
	長谷川栄	佐伯（大分）
	宮下繁一	宗崎（宮崎）
	牧野隆一郎	鹿屋（鹿児島）
	堀越久美	
	青森（青森）	横浜（北海道）
	花巻（岩手）	青森（青森）
	秋田（秋田）	花巻（岩手）
	天童（山形）	秋田（秋田）
	いわき（福島）	天童（山形）
	水戸（茨城）	いわき（福島）
	宇都宮（栃木）	水戸（茨城）
	佐倉（千葉）	宇都宮（栃木）
	市川（千葉）	佐倉（千葉）
	東京（神奈川）	市川（千葉）
	横浜（神奈川）	東京（神奈川）
	富山（富山）	横浜（神奈川）
	新津（新潟）	富山（富山）
	長野（長野）	新津（新潟）
	長岡（長岡）	長野（長野）
	高岡（高岡）	長岡（長岡）
	福井（福井）	高岡（高岡）
	甲府（甲府）	福井（福井）
	静岡（静岡）	甲府（甲府）
	浜松（浜松）	静岡（静岡）
	豊橋（豊橋）	浜松（浜松）
	名古屋（名古屋）	豊橋（豊橋）
	大津（滋賀）	名古屋（名古屋）
	白井修	大津（滋賀）
	古川博	白井修
		古川博

委員会報告
やったネ!!この一年
直接交流・直接実感

総務委員会

総務委員長（豊橋ＹＥＧ）鑢田 喜評

本年の総務委員会には、大村理事会長から至上命令がありました。「今年も理事さんの出席率は最低90パーセント以上で。」誰くとも4月スタートには、全員の顔ぶれもなく、笑顔があり、人和を築かれる明るい会議をやろう」でした。会議は、月々の役員会と会員総会（全国大会、全国会長研修会）があり全て総務委員担当です。まず月々の役員会ならば、出席スタートを心がけ、日本商工会議所会議室の机の配置、役職の並び順、マイク、名札の置き方をやり、開会に気持ち良く会議ができるよう[illegible]の研修、[illegible]成の為、いろいろ考えてみました。東京の全国大会会員総会でも同様です。その他、日商会館より協議会企画・規約改訂等案作成・ブロック大会開催支援・会員増強と財政問題の検討等々、私達にとって[illegible]は良き勉強の場でありました。

総務委員会委員		
委員長	鑢田 喜評	（豊橋ＹＥＧ）
委員	辻 博明	（[illegible]ＹＥＧ）
	藤谷 勉	（[illegible]ＹＥＧ）
	野村 毅	（[illegible]ＹＥＧ）
	平江 信行	（沖縄ＹＥＧ）
担当理事	木口敏一郎	（松戸ＹＥＧ）

企画委員会

企画委員長（青森ＹＥＧ）後藤 薫

本年の企画委員会は、①第17回全国大会（鹿島大会）への指導・助言、②第15回全国会長研修会（新潟）への指導・助言、③平成10年度全国大会・平成10年度全国会長研修会の立案策定の審査および検討、ならびに④全国大会における商業・ビジネス交流プラザに対する指導・助言を活動内容とした。

①については、1月の役員予定者会議での理事役員を実質的なスタートとして、2・3・4月の各委員会での検討、および4月の全国理事会との打合せを踏まえて、5月の委員会において開催内容の承認を得、11月実施に至った。

②については、8月の理事会を兼ねた主管者実行委員会と合同の委員会開催を実質的なスタートとして、10月の役員会において開催内容の承認を得、2月実施に至った。

③については、4月に提案された立案策定をもとに、6・7月の理事会を経て、7月の役員会において、11年度全国大会は新潟県（新潟県胎内）に、10年度全国会長研修会は千葉ＹＥＧに各々決定された。

④については、特にビジネス交流プラザについて従来の形態のものに加えて、特別委員会の企画により新しい形態のプラザが分科会として生まれた。

以上、活動内容等の面刷りであるが、これら活動に尽力してくれた各委員の一層の努力に感謝を申し上げます。

企画委員会委員		
委員長	後藤 薫	（青森ＹＥＧ）
委員	志田 [illegible]	（富士ＹＥＧ）
	中岡 規彦	（[illegible]ＹＥＧ）
	木下 伸一	（[illegible]ＹＥＧ）
	[illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	安藤 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
担当副会長	吉本 博茂	（[illegible]ＹＥＧ）

研修委員会

研修委員長（山形ＹＥＧ）宮川 卓久

「翔生塾」

この研修事業は、平成7年度から始まり、今年で3回目を迎えるわけですが、21世紀へのアクションプログラムの一つとして「後継者育成、経営者としての資質向上」のための研修を目的としており、「翔生塾」の名称を戴きました。後継者の自覚と経営力の向上をテーマとして本年度も開催いたしました。

参加者30名、事業承継に10名、計40名の参加をいただき、カリキュラムで開催いたしました。

「地域でのリーダー」

「自企業の経営者、後継者」によりレベルの高い地域、日本、世界の「オンリーワン企業」を目指したプログラムを企画いたしました。講師の講演を聴くだけでなく、一つの企業をモデルとして、いかに成功したか、いかに失敗したのか、グループごとに分析し、困難な状況の中での事業はどうしたら成功するのかを具体的に討議するケーススタディを取り入れました。

その後、参加者の中から「自社で翔生塾で学んだ手法を用いてのオンリーワン企業づくりに取り組んでいます」という嬉しい報告が数社届いております。

また、研修もさることながら、交流会は力を入れました。全国各地区の質の高い参加メンバーが一堂に会し、情報交換を行い、交流と連携を図ることができました。これから、このネットワークを生かし、各地、各社の事業に役立てば幸いと考えます。

最後に、翔生塾開催にあたりご協力を頂きました皆様、そして参加頂きました皆様にお礼を申し上げます。有り難うございました。

研修委員会委員		
委員長	宮川 卓久	（山形ＹＥＧ）
委員	時岡 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	安井 良一	（[illegible]ＹＥＧ）
	[illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	久保田喜孝	（[illegible]ＹＥＧ）
	[illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	大西 [illegible]	（鹿児島ＹＥＧ）
担当副会長	[illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）

特別委員会

特別委員長（亀岡ＹＥＧ）八木 秀和

今年度で3年目を迎えた特別（連携）委員会の活動報告をします。

●中央官庁への訪問

昨年5月13日、特別委員会はＹＥＧ連携の推進を推進し、そして地域連携の今後の取り組みを紹介しアドバイスを得るために、各1委員会ごとに関係省庁中央官庁を訪問し、若手官僚と意見交換を行った。

知識連携は国土庁、産業連携は中小企業庁、観光連携は静岡庁、建設不動産連携は建設省、情報サービス連携は郵政省を訪れ新しい施策や各省の情報について有意義な意見交換を行った。各省庁を訪れた中でそれぞれに「ＹＥＧ連携」の活動への強い期待と（連携）の進め方等を受けました。

●全国大会　連携大会での開催

昨年11月21日、今年度初めて取り組んだ商業連携の中間報告が連携大会の場で行った。

特別委員会のメンバー各自が全国各地を訪ねて調査研究した様々の事例や国の施策について中間報告を行った。全国のＹＥＧの活動の一つ、●全国審査会での報告完成と発表

今年度の特別委員会集大成を報告書にまとめ、会員研修会の場で報告発表しました。

委員会のメンバー一人一人が全国を歩いて得た貴重な経験を報告書にまとめました。「出張費いたＹＥＧメンバー、協力頂いたみなさん、大変ありがとうございました」。

最後に、本年度特別委員会へのご協力を戴き、感謝の気持ちでいっぱいです。連携の一層の発展にご尽力をお願い申し上げます。

そして個々の企業活動の一助となれば幸いです。平成9年度報告書を作成させていただきました。本年度のアナウンスメントで紹介からまたご連絡をお掛けしました。今年2月発行の報告書をご一読ください。

最後に、委員会活動にご協力くださった全ての方々に感謝申し上げ、委員会活動報告とします。

特別委員会委員		
委員長	八木 秀和	（亀岡ＹＥＧ）
委員	鈴木 明	（一宮ＹＥＧ）
	南部 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	斎藤 宣人	（[illegible]ＹＥＧ）
	江原 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	川西 宏二	（[illegible]ＹＥＧ）
担当副会長	鈴木 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）

記念誌特別委員会

記念誌特別委員長（米子ＹＥＧ）松本 晴之

記念誌特別委員会は、商工会議所青年部が10年目を迎え「商工会議所青年部10年記念誌」を作成することになりました。

商青連では、過去に5周年記念誌「明日への挑戦」10年記念誌「翔けＹＥＧ」と2回記念誌を発行しております。商青連発足10年、商青連10年のこの年節目で、商青連の歩み、議事録要旨ニュース、全国大会・会長研修会の歩み、規約の手引き、ブロック大会の発足、今後の内容も含め、紹介された内容も充実させました。

この10年記念誌では、なるべく多くのＹＥＧの皆さんの意見を取り上げ、全国のＹＥＧの皆さんへお伝えすることを心がけて参りました。そのために、①商青連現代10・15代会長による『歴代会長座談会』、②三つのテーマに沿った『各地ＹＥＧからの提言』

③平成9年度商青連役員による五つのテーマに沿った「グループディスカッション」を掲載することになりました。そして、これらの提言を基にして、青年部の「夢・挑戦・ビジョン」をまとめとして掲載しました。

平成9年の1月から記念誌発刊委員会は、企画・取材・編集・校正と、全国各地で委員会を度々開催し記念誌の作成にとりくんで参りました。どうか、我々委員会で作ったこの記念誌が、全国のＹＥＧの皆さんにとって今後の青年部活動の一助となりましたら幸いに存じます。

記念誌委員会委員		
委員長	松本 晴之	（米子ＹＥＧ）
委員	[illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	玉本 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	上野 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
	荒木 [illegible]	（[illegible]ＹＥＧ）
担当副会長	川井 [illegible]	（鹿児島ＹＥＧ）

広報委員会

委員長（敦賀ＹＥＧ）浜多 寿志

今年度広報委員会は、機関紙23号、24号を発行させて頂きました。今年の機関紙の発行は遅れということで前理事長ＹＥＧを重視いたしました。写真をふんだんに使用し読みやすい紙面を目指しました。紙面の編集の遅れもなく、皆様に御協力頂きありがとうございました。

って頂いた方々のお陰であり、色々な方面におきそいいただいた方々をはじめ、三番の皆様、企画ご各会員会の皆様にも心から感謝申し上げます。

委員（石川ＹＥＧ）千葉 基

広報委員会に出向し、新しい人々との交流を広げ、リーダー研修や自己研鑽を重ねる多くの物事を学び参加することができました。文章づくりなどの、自分など

委員（米沢ＹＥＧ）齊藤 明彦

9年度の商青連広報委員会は、機関紙23号、24号をそれぞれ月に発行することを決めスタートしました。事業を進めるなかで私自身勉強になり、大変良かったと思います。全国の仲間との出会いで、仕事や地域の中だけでは学べないようなことが、直接交流・直接実感できました。新しい出会いから各地ＹＥＧとの連携事業も実現できました。

自分自身の文章力として新たな発見を活かしていきたいと思います。

徳島全国大会報告

今はただ感謝のみ そして明日に向かって!!

全国大会 大会会長　北島 重利

今、第17回商工会議所青年部全国大会を終え、改めて大会を振り返ると、様々な出来事が走馬灯のように私の頭の中を駆け巡ります。

私自身、徳島YEGに入会して4年と経験が浅く、また、他のイベントなどしたことのないこの単会で、全国大会を運営した事は関係いどったのではないかと考え込む事も度々でしたが、引き受けてしまったものは仕方がないと開き直り、2年前の全国大会大賞大会終了後、組織づくりから始めました。

過去の大会を参考にして、委員会（部会）を設置し、また、徳島県産の牛乳会の処置付しも検討にし、おずかな単会30名ですが、徳島県連全員が主管するという体制を整えました。そして記念事業（記念講演）からブランニングを開始しましたが、「ヤングアントレプレナー」と「世界に目を向けた大会」というキーワードに基づき、色々と途中経過はありましたが、最終的には世界的なレベルで活躍している徳島の4企業の企業見学及び社長講演に決定しました。

特に人気のあるジャストシステムについては、当初は無理と言われた浮川社長本人の講演をいただくことができ、ありがたく思いました。

大会参加者が楽しみにしている大懇親会では、「最後まで楽しめる」という2つのテーマを掲げ、思い切って懇親会場に1200名の数を集め、遅くて懇親会を楽しむという、今までの大会とは違った雰囲気を味わっていただけるよう企画しました。又、阿波おどりとブラジルのサンバチームの競演により会員が参加できるようなアトラクションも企画しました。

大会式典については、スタンダードな形式に加え、スライドで商青連15周年という節目を表現しました。

まちおこし物産展については、県民県民にアピールするために徳島市の中心街（市街のそばの新町川水際公園）で開催しました。また、サンバ・阿波おどり・アマチュアバンド等のイベントも企画・実施しました。

その他、エッセカーション・YEGビジネス交流プラザ等々についても、様々な問題もありましたが、徳島YEG・徳島県連メンバーで知恵を出しながら、企画・実施しました。

この大会の総括をするにあたり、会員不足・人員不足・動力不足などにより、色々な反省もありましたし参加していただいた全国のYEGのメンバーにも見えない部分でご迷惑をおかけしたと思います。

しかし、「徳島らしい全国大会」にしたいという私たちの思いは少しは分かっていただけた大会に出来た様に思います。私自身はこの徳島大会を開催するにあたり、「大会を開催する事」自体を目的とするのではなく、大会の開催を起爆剤とし、徳島YEG・徳島県連が次なる展開に結び付くような手段にしたい」と宣言してきました。明日に向かってYEGが進んで行って欲しいと願っております。

最後になりましたが、主催していただきました商青連の役員と日商の事務局、そして不景気にもかかわらず、アクセスの悪い徳島までお越しいただいた全国2,681人のYEGメンバーに徳島県連300名より深く感謝を申しあげます。

（事業報告）

○総会 ……2,661人

（参加人数）

○親睦ゴルフコンペ……60人

○来賓懇親会……136人

○記念分科講演会

神戸ジャストシステム……278人

鳴大塩製薬工場……106人

日亜化学工業……34人

神戸野メタクロン……80人

○阿波の文化振興……104人

○金種別分科会……50人

（参加人数）

○エッセカーション

広き仕き科と交流、幸福（「しあわせ」）実感……71人

大歩危・小歩危から高知へ……25人

唐門・明石海峡大橋を渡んで神戸へ……17人

○YEGビジネス交流プラザ……32企業

○YEG全国まちおこし物産展……60企業

「YEGヤングリーダー研修」

研修委員長　宮川 卓久

本年、商青連は設立15周年という大きな節目を迎えるにあたり、年間スローガンを『「直接交流・直接実感」連携そして共生へと YEG新たなる出発』と掲げ、創成期から円熟期へ、そして21世紀への新たなる出発点と位置づけております。その新しい時代への第一歩となる大きな事業の一つが、今年度スタートした「YEGヤングリーダー研修」でありました。

各地商工会議所青年部会員の若手経営者又は後継者の資質向上を図ると同時に、全国規模にて、交流と研修を通じて地域や青年会の次代を担うリーダーの育成を目的に実施しました。

なぜならば、各単会で団塊の世代が卒業し始めている昨今、次世代を担う若手メンバーのレベルアップを図ること、そして全国ネットのすばらしさを直接肌で実感できる機会を提供したい、大変だけれども、誰かがいつかやらなければならないのなら、今年度取り組もうという大村会長の熱い思いからスタートした研修事業であります。

しかし、初めて取り組む事業であり、頭の中では理解できていても、具体的にどんな内容にしたらよいのか、参加者に満足いただけるのかを研修委員会担当の足立副会長と共に委員会を幾度となく開催し、少しでも大村会長の思いが実現できるような研修にしたいと思い続けて参りました。

第1回目の研修が、6月で早い時期の開催ということもあって3月の岩見沢の会長研修会の頃から、本当に重荷な委員会を開催いたしました。そして驚いたのが、いつも100パーセントに近い参加率でした。そういう委員会を開催するごとに、私がひそかに実感したことがありました。それは、委員会を支える8名の副委員長の皆さんが、「我々に任された事業である。なんとしても必ずやり遂げ、成功するんだ。」という強い意志が感じられるようになりました。委員長として心を強く持さなければいけないなという思いがこみ上げてきたものでした。

そして、何といっても経験豊富な足立副会長の存在は本当に大きかったと思います。委員会メンバーが、時様に乗り上げる度に突破口を開いて頂きました。口では厳しいことを言われますが、常に参加者のためを思ってのことで、心の優しい人であることを知りました。

事業活動に入りますと、出向理事、ブロック代表理事、部連委員、各単会の会長を通じて全国の単会への周知活動を展開いたしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当に有り難うございました。お陰様を持ちまして予想を上回る273名のご参加を頂きまして、東京、大阪、徳島の3会場で盛大に開催することができました。

研修、講演会、実践、そしてパネルディスカッションなど内容を盛り込み、参加者より大変な評価を頂きました。また、交流会も大変盛り上がり、全国のメンバーの交流ができたことを嬉しいたしました。

本年度、「YEGヤングリーダー研修」の企画並びに運営に携わって、いろんな経験と勉強をさせていただきました。また、いろんな人と接する中で、その人の本当の人柄を知ることができたような気がいたしました。

そして、本年度、研修委員長というポストを私に任せて頂きました商青連大村会長にお礼を申し上げご報告とさせていただきます。

委員（徳野YEG）
秋山 純夫

私は、広報委員会の東京特派員として活躍の場を広げさせていただきました。おかげで日経ベンチャーのセミナー、自民党議員との懇談会、そして"体験ゆく大船"の作詞者、作曲者の先生方の取材等を通じ、多くの素晴らしい方々と出会い、大いなる啓発を受けることができました。この委員会に配属されたことを幸せに思っています。

委員（大町YEG）
倉科 誠

初めて下部組織に出席したときはとんでもない所に来てしまったと思ったものでした。今は、すばらしい体験をさせていただいた皆様に感謝しております。私個人としては第二子も生まれ、一生でも決して忘れることのできない一年となりました。お世話になりました。ありがとうございました。

大会委員会委員		
委員長	浅本 知志	（阿波YEG）
委員	千葉 晃	（石井YEG）
	曽倉 明信	（木沢YEG）
	秋山 純夫	（鳴門YEG）
	倉科 誠	（大町YEG）
	福田 直史	（徳島YEG）
事務局委員	河野 義治	（徳島YEG）

直接話そう!!直接交流しよう!! 姉妹提携 YEG パートⅡ

〈高岡YEG〉

岐阜県関市商工会議所青年部との交流は、昭和55年9月に関市より20名が視察研修を目的として来高されたことから端を発している。

その後、昭和57年10月の南紀での第2回全国大会において出会を深め、引き続き意見交換や野球、ゴルフ等のスポーツ交流を行ってきた。

昭和59年9月関市において、第2回東海近畿ブロック運営研究会が開催されたのだが、それを機に、その前日に関青年部会が姉妹青年部会の締結をし、調印を行った。

その趣旨は、「積極的に一体的な行動を起こすことによって、各々が地域経済の健全な発展を図る」という青年経営者の使命をはたすことができるという所にあった。

この日（昭和59年9月17日）、高岡部会から上田博会長をはじめ約40名関部会から名約40名が出席し、関商工会議所3階ホールにおいて調印式が行われたのだが、関部会が姉妹部会として選定に至ったのは、岐阜県関市が"刃物"のまちとして有名で「伝統産業を有する」「都市環境に類似点がある」「お互いに交流が深い」という魅力があったからである。

その後、関青年部と高岡青年部は今日まで記念事業やイベントその他、委員会単位での勉強会等の交流を継続している。

昭和63年、関部会は10周年を迎え、その記念誌には関市長らの祝辞とともに、当時の会長第29代会長高田一二三氏の10周年に対する祝辞が見られる。

平成6年には、姉妹青年部となって10周年を迎え、お互いの青年部の果たす役割を祈念し、関には「雄の板岸桜」高岡には「花水木」をそれぞれ記念植樹している。

今後は、両市の経済交流を活発に進め地域経済の発展に貢献するために、具体的な即効性のある勉強会等も計画していきたい。

〈関YEG〉

昭和54年、関YEGは、関商工会議所会頭のお力添えで産声をあげました。当初私たちは、商工会議所青年部というものがよく解らなかった為、青年部の先進地であった高岡YEGをお手本にして、組織や規約等の基礎を作るよう、昭和56年より交流をお願いして現在の隆盛を作っていったのです。

昭和59年、当時の高岡・関両YEGの会長の発案で姉妹提携を結ぶ事となり、9月17日、関で調印式を行ないました。以来互いの周年記念に出席するのはもとより、視察旅行・スポーツ交流・ゴルフ等でも友情を深めてまいりました。平成6年には、姉妹提携10周年を記念して植樹を高岡・関両市で行ないました。平成8年度関YEG主管で行なわれました東海ブロック大会にも、高岡YEGから参加頂き、良い関係を築いています。

来年度、関YEGは創立20周年を迎えます。やっと大人の仲間入りといったところです。今までの兄弟みたいな良い関係を大切にするのはもとより、一日も早く大人の高岡YEGに肩を並べられるよう、レベルアップに努めたいと思っています。

「本年度関YEGの事業」

本年度関YEGは、会員のレベルアップの為の充実した例会をめざしています。5月には、大ベストセラー「脳内革命」の春山茂雄氏を講師に迎え例会を開催し、関市民へのYEGのPRと、選元を目的に、オープン例会として一般の方へも無料公開とし、1,000名以上の参加を得る事ができました。

「関の特産品」

関と言えば、名刀「関の孫六」に代表される、ナイフ・包丁等の刃物が有名です。その中でも、今話題は、リサイクルハサミです。以前、消費者に出回っていました長谷川義信氏の会社で作っているもので、ペットボトル中、切りにくい牛乳パックの角が簡単に切れたりする便利なハサミです。

♥姉妹ＹＥＧ

高岡（富山）――関（岐阜）
氷見（富山）――大町（長野）
魚津（富山）――横須賀（神奈川）
黒部（富山）――浜田（島根）
水戸（茨城）――敦賀（福井）
洲本（兵庫）――大田（島根）
江戸川（東京）――鶴岡（山形）
長門（山口）――米子（鳥取）
別府（大分）――指宿（鹿児島）
大村（長崎）――沖縄（沖縄）
米沢（山形）――高鍋（宮崎）

上杉鷹山公まつりでのイベント

〈米沢YEG〉

過去そして未来へ　ＹＥＧ新たなる出発』に基づき、地域連携事業の第一歩として正式に友好の盟約を取り交わしたものです。

調印式では米沢ＹＥＧ斎藤会長と高鍋ＹＥＧ鈴木会長が青年経済人同士友好関係を築いていくことにより、互いに切磋琢磨し、両地域の経済的発展に寄与することを誓い合いました。

上杉鷹山公は「なせばなる、なさねばならぬ何事も　ならぬは人のなさぬなりけり」と申されたそうですが、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ、米沢・高鍋両地域の礎となることを期待しております。

米沢ＹＥＧ（山形県）と高鍋ＹＥＧ（宮崎県）では友好姉妹青年部連携を締結、去る12月3日高鍋町において調印式を執り行いました。

高鍋藩と米沢藩が上杉鷹山公の養子縁組を結んだことから端を発し、二百数十年の月日を経た現在でも、両青年部はこの歴史的関係を伝承し、交流を深めて参りましたが、今年度スローガン『直接交流・直接実感

〈高鍋YEG〉

平成9年12月3日、終戦の混乱が癒えぬ昭和23年に高鍋商工会議所が誕生し、50年の歳月が流れた記念の日に、創立50周年記念式典のメイン行事として、約235名の出席者に見守られ、米沢ＹＥＧと高鍋ＹＥＧの21世紀を担う青年たちが、友好姉妹青年部連携調印式を執り行ないました。調印式には、遠く米沢から深川常務理事、青年部斎藤会長以下4名がはるばる駆け付けてくださり、融和な中にも盛大に行なうことができました。

盟約書「新たなる青年経済人としての友好関係を構築することにより、互いに切磋琢磨し、商工会議所青年部の使命である次代への先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもって豊かで住みよい郷土づくりに貢献することを誓約する」にサインをし、両ＹＥＧ会長が固い握手を交わすと、記念式典会場に拍手が巻き起こり、両ＹＥＧの連携に対する期待の高さを痛感しました。

米沢市と高鍋町の友好の歴史は古く、今から240年前、名君上杉鷹山公が米沢に移られて以来続いておりますが、その240年のときを超えた先人たちが築いてこられた友好の歴史を大切にし、今後、地域の商工業の発展を目指して、協力のご期待に添うべく連携活動を行なっていくことを決意した次第です。

〈氷見YEG〉

①姉妹提携時期
平成9年8月30日(土)
②いきさつと目的
姉妹ＹＥＧのある長野県大町市と氷見市とは昭和47年11月より姉妹提携を結び、当時は交流が盛んであったものの、ここ数年は若干の行き来があるだけであった。
そこで、姉妹都市としての意義を確認するべく、氷見・大町のＹＥＧが両市のパイプ役を担うため姉妹ＹＥＧの提携を結んだ。
そして、その先には海の都市氷見と山の都市大町という異都市との交流を図ることで、流通交流及び文化等の交換・伝達を図んでいる。
③メリット
イベント・まつりそして、青年部事業において積極に相互参加できることで、自市のＰＲが簡単にでき、また参加感謝をすることで、イベント等を盛り上げることができる。
また、現在では青年部という垣根を越え、一個人一家族としての交流を行うことができるようになっている。
④姉妹事業の現状
イベント・まつり等はもちろん簡易な例会等にも相互に参加しており、また今年度は合同家族例会も予定している。
⑤将来展望
交通事情、情報化等の発達を見越した活動を起こすため、現在の交流をより一層発展させ、青年部の活性化はもちろん、自治業の、そして地域の活性化を目指して邁進して行きたい。
⑥新規提携の計画
現在姉妹提携の予定はありませんが、岐阜県各地区のＹＥＧと交流を図っています。（東海北陸自動車道の開通を見据えて）
⑦事業、特産品、ミスコンの紹介等
◆事業…氷見潮工感謝祭、ひみまつり、ひみ魚まつり、まるまげまつり、ひみキトキト元気村、ひみキトキト魚大学等
◆特産品…氷見イワシ、寒ブリ等の鮮魚、塩干物、氷見牛、氷見うどん、銘酒、大敷網・麻花こし
◆ミスコン…青年会議所が中心となり氷見祭り（8月）に決定している。ミスは3名決定し3名とも「ミスキトキト」と称される。
今年のミスは、上の3名です。

〈大町YEG〉

①姉妹提携時期　平成6年8月20日
②いきさつと目的
長野県大町市と富山県氷見市は昭和47年11月より姉妹都市として調印したが、行政間の交流は若干あるものの民間レベルでの交流はほとんどなかった。
そこで、姉妹都市としての意義の確認をするべく、大町・氷見のＹＥＧが両市のパイプ役となり、「まずは経済界からの交流」ということで姉妹ＹＥＧの提携を結んだ。
これは、単に経済交流だけでなく、山の都市大町と海の都市氷見という異都市間の交流を図ることで、人と人との繋がり、地域文化の交換・伝達を図んでいる。
③メリット
各種イベントや青年部事業において相互参加できることで、他都市の見聞が出来たり、自市のＰＲが簡単にできる。また参加感謝をすることで、イベント等を盛り上げることができる。
現在はＹＥＧの垣根を越えて一個人、一家族としての交流が行われている。
④姉妹青年部の現状
両都市で行われている各種イベントへの参加はもちろん両青年部事業へも参加している。今年度は、氷見ＹＥＧ開催の家族例会への参加を計画している。
⑤将来展望
今後は現在行われている交流から一歩前進するように、より活発な青年部活動を展開する。また、青年部同志の交流はもちろん個人同士の交流も活発に行い、両地域の活性化に結びつけたい。
⑥新規提携の計画　なし
⑦事業、特産品、ミスコンの紹介等
◆事業…エリアサミット・イン・おおまち、講習会・勉強会等、大町祭祭り、大町やまびこまつり、他に行政・会議所事業への協力
◆特産品…信州そば、りんご、松崎和紙、おざんざ、蕎麦（白馬鳴・会瀬黒部・北安大岡）
◆ミスコン…ミスコンは現在行っていないが、大町の観光等の案内役として大町レディース（かたくり、こまくさ、アルプス）3名が4月から3月まで1年間活動している。

一年を振り返って

ありがとうYEG仲間

平成9年度商青連会長　大村晴利

平成9年度もまもなく終わろうとしております。

今年一年間全国のYEGに大変お世話になりましたこと、この紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。有難うございました。

平成7年度に、第15回商工会議所青年部全国大会・大宮大会を埼玉県連の主管にて開催させていただき、馬場会長としてその大会会長としての任に就かせていただいてから、現行のルールにのっとり、今年度の全国商工会議所青年部連合会（以下商青連）会長職を拝命させて頂きました。そんな流れを一番の本にたとえるならば、あの全国大会開催が第一章であり、翌年（平成8年度）の副会長が第二章、そして本年度の商青連会長の年度が最大のヤマ場である第三章でありました。更年度の前商会長は終章であり、その後の初設会は後書きではなかろうかと思います。

そんな流れの中で商青連設立13年目の節目の年の会長を受けるにあたり、様々なことを考えました。14代会長まで様々として受け継がれてきた設立理念の原点とYEGスピリッツの更なる向上、そして5年、10年という5年のスパパーンを考慮に入れた中長期的視野に立ち、現代という時代を背景とした決して単発では終わらない事業展望をさせていただきたいと考えました。

2年前から商青連が全国に投げかけた「連携」というキーワードを継承し、3年目の総括をする事も重要な要因でありました。この13年の節目の年をキラリと光る1年とするために：そして新しい商青連があの25年目から変わったと一

全国のメンバーに記憶として残して頂ける1年とするために、『直接交流・直接実感』連携をして共生へ

YEG原点なる『信念』のスローガンのもと、第15代会長を務めさせていただきました。

組織改革また一歩前進

前年の松田会長を引き継ぎ、組織改革の3年目にあたり副会長の強化とブロック代表理事（9名）の執行部としての立場を確立させました。正副会長・ブロック代表理事・委員長会議を節目に設け、各プロックと商会会（商青協議会）の長であるブロック代表理事にも商青連の動き、各委員会の事業ならびにその連絡体制等の御理解を深め、各ブロックに伝達していただき『見える商青連』とするために御協力頂きたいと考えました。9名のブロック代表理事の方々には、見事なまでに各々のブロックと商青連とを結ぶ掛け橋として行動をしていただき、その役割と立場の確立をしてくださいました事、心から御礼を申し上げます。

明るく楽しく　フレンドリーな商青連

また、役員会に於いては、組織委員長の司会のもと「明るく楽しくフレンドリー」をモットーに、わざわざ全国から貴重な時間と高いお金を使い集まってくれた役員が早く打ち解け合い、自由に意見交換ができるような雰囲気作りをお願いをし、ルーキア溢れる運営の中、専務理事の絶妙な議事進行のお陰で常に90％以上の出席率があり、意思の疎通が上手く行なえたことも、お気付にならないようなことも委員会では、少しでも良いものを作ろうと真剣に考えているのです。どうかこの年に2回発行の『翔生』を楽しみにしてお読み頂きたいと思います。

そして、各委員会も16年の節目としての事業展開の中、仕事量も例年よりはるかに多くなっているにも関わらず素晴らしい運営が出来、事業報告書等を同行するなど、まさに節目の年の委員会としての役割を良いて頂きました。それぞれの委員長には深く御礼を申し上げます。

15年記念誌の発行

商青連が設立されて5年目に『明日への創造』、そして10年目に『開け！YEG』という記念誌が5年周期ですでに2回発行されています。それを受けて15年の節目として3番目の記念誌の発行をすることを決定しました。記念誌制作委員会を発足させ全国YEGの現状や歴代会長所感会等をはじめ、中長期的視野に立っての読み応えのある記事が多く各単会にとってバイブルとしてお使い頂ける有効なボリュームに仕上がっております。これからのYEG運営に有意義にお使い頂けたら、幸いと思います。

YEGヤングリーダー研修

商青連は全国YEG単会から、そして会員から会費を頂き運営がされています。しかし、14年間の歴史の中でその活動内容があまりにも認知されていない事に気付きました。それには幾つかの理由が考えられますが、やはり全国ネットの素晴らしさを各メンバーに伝えたいと言う思いのもと「見える商青連」の合言葉を掲げ、各単会から1名という今までの出向者の倍増を図り、各単会から1名の研修会への参加を呼びかけ加数名の役員と共に研修会に参加し、それも単発ではなく年3回有意義で中身の濃い研修を受ける中で友情の輪を広げ、ネットワークを全国に張っていたどくために、そして年に1度の全国大会を再会の場とさせていただきたいとの思いからYEGヤングリーダー研修を開催させていただきました。

勿論アントレプレナーとして最も必要とされている企業経営の基本や減資等、自己研鑽の場であり、それぞれの企業の発展にも繋がる為の研修内容であることを主眼においております。東京・大阪・そして全国大会開催地の幹事として開催をされました。

勉強会後の懇談から始まり各青連からご参加の方々の熱意ある講演時の有意と熱タイバ経営の絶大なご協力を頂き、素晴らしい研修会であったと感じております。

同業種の小委員会の設立

本年度の連携の切口は、同業組所でありました。商業・製造業、建設・不動産、情報・サービス、そして地域連携の5つの小委員会の設立をしました。同じ地域内の同業種はややもすると過当競争となりますが、逆くの同業は相談をし合ったりノウハウを教え合ったりできるアドバイザーに成りえます。そんな同業の集まりの中からそれぞれの情報の交流に出向き、若手官理と情報交換が出来るようになったことや自治民主党の新工部会との懇談会を持てたことなどは今年一番の収穫であり、強力から発達された商青連が連続に続けてきた地域のためのYEG活動が中央の中心部にまで浸透し認知されたキであったと思います。

5つの小委員会の中から新しい物流システムや商品の企画などが生まれようとしています。担当副会長、委員長を中心に全国からお集まり頂いた委員の皆様に感謝を申し上げるとともに、会員研修会の時の発表と報告書を楽しみにしている次第です。

世界への扉を開く

また本年度は初めて、アジア商工会議所連合会（CACCI）の要請で韓国・済州島での第34回理事会に出席させていただき、世界39ヶ国の代表の前で「日本におけるYEGの活動について」のスピーチをさせていただくチャンスを得、若い力の必要性を訴えてまいりました。参加国の中にはすでに青年部が設立されている国、設立準備中の国と様々でありますが、このことにより、世界の青年部との交流と連携が必ず始まると思います。まさに情勢の出発元年の記念すべき出来事だったと思います。

20周年に向けて

この一年商青連会長として、全力投球で私の思いのすべてをぶつけて来ました。「感謝り会議」と言われなからも、出向役員の皆様の絶大なご支援と協力を頂いた中、副会長、ブロック代表理事、委員長を引き受けていただいた方々には大変にお世話になりました。特に専務理事の本川君には、全国二人四役をするなど動心両面に渡り支えていただきました。心から感謝を申し上げます。

今我々は新・旧子年の大きな時代の流れの中で、歴史の大きな変換点にあうことの意味と、未来に対する千年の歴史を築く大いなる責任とチャンスの両方を持ち合わせています。

素晴らしいYEGの未来へ、そして商青連の30年に向けて『新しい出発』を本年度から、大きく、強く羽ばたいて頂けたら幸福であります。貴重な経験、体験をさせていただいたことに感謝を申し上げて、一年の報告とさせていただきます。

アリガトウ
ゴザイマシタ。

連携　そして　共生へ　発信を続けるYEG

去る5月26日、日経ベンチャー主催の特別セミナー"会社を強化させる「二世経営」"が、多数の聴衆を集め東京で開催された。

基調講演に、興タナー経営 社長の出口星一氏が「二世経営」に求められる企業家精神。また作家の童門冬二氏が特別講演として、「歴史から学ぶベンチャー経営、"二世経営"」というテーマで、それぞれ講演をされた後、二世経営者によるパネルディスカッション、「若手経営者に求められるベンチャーマインド」が開催された。

これに、我、商青連関東ブロック代表理事の大本本信幸君が、神ベスト電動代表取締役、北田章光氏、日本青年会議所、経営開発プログラム委員会委員長、河合政実氏、とともにパネラーとして参加した。

日経ベンチャー編集長、宮島直郎氏のコーディネートのもと、各々が事業承継の経験や理想的な事業継承に関すべき二世経営者としての役割を発表した。

各人の所属する団体や企業をバックグラウンドに、その経験や体験を踏まえ、青年らしい夢を語ったことが印象的なパネルディスカッションであった。特に大本本君は、いつものアナウンサーのごとく清らかな口調で、ユーモアを交じえ、YEGの素晴らしさを十二分にPRした。決して弁舌だけでなく、内容、話術とも際立っていたことを感嘆にお知らせしたい。後に、「行動力のあるYEGらしさを自分の体験を通じ、自分の言葉で語ったつもりです。YEGに対する期待感も会場の反応から感じとることができました。」と語る。大本本君の感想に同感である。

また6月13日には、自民党本部に於て、自民党商工部会所属の国会議員と商青連役員との懇談会が取り行なわれ、税制や労働問題等、多岐に渡って活発な意見交換がなされた。熱わくば、我々の主張が国政の場で生かされんことを期待したいと思う。

稲葉日商会頭との懇談会開催

「日本商工会議所会頭と商青連役員との懇談会」

[illegible]

「第15回商工会議所青年部全国会長研修会

『掛川道場』を振り返って

掛川商工会議所青年部会長　河原崎逸雄

[illegible]

平成10年度第16回
商工会議所青年部

全国
会長研修会

四国　架橋の街
「今治」で

今治YEG
会長　西原　透

青い国四国、その四国で最初に橋が架けられたのは今治でした。以来我が町は今日まで海と共に栄えて参りました。

今この町に本州との新しい海の道がつながろうとしています。西瀬戸自動車道（せとうちしまなみ海道）は平成11年春の開通に向けて、今急ピッチで工事が進められています。

この架橋の街「今治」で平成11年2月、全国会長研修会は開催されます。波静かな瀬戸内の眺望に囲まれた穏やかな環境のなかで、当年度から次年度への大事な橋渡しの研修会を、140名のメンバーが心から歓迎させていただきます。より多くの単会の皆様のお越しをお待ちしております。

アジア商工会議所連合会 理事会開催 (CACCI)

副会長　河井 修志
専務理事　木戸 祐一郎

平成9年11月6日～8日に韓国済州島で開催されたアジア商工会議所連合会（Confederation of Asia-Pacific Chambers of Commerce and Industry - CACCI）第61回理事会に民会議の議長である大西王文太阪商工会議所会頭（日本副会頭兼務）の名代として大村会長、足立副会長、木川専務ら4人で参加しました。加盟国は東・東南アジア諸国にオーストラリア、ニュージーランドを加えた21ヶ国です。参加された理由は2月にシンガポールで開催された同連合会の企画委員会の席上で、国の活性化には青年経済人の活躍が必要であり、日本にはその活動を含める会議所活動の啓蒙普及の目的を包含する商工会議所青年部が設置されており、活発に活動している旨の話題が出され、各国とも是非その内容を聞きたいとの要望が出たためであります。席上、大村会長は、まず日本での青年部設置事情が61・6%と高く、日本の商工会議所での組織化が進んでいることを説明、次に後継者対策、地域活性化のためのイベント企画や高齢、地域製業ビジョンの策定、さらには商工会議所活動に参加することにより関心と理解を深めもという目的があることを説明しました。

また日ACCIとの相違点は会費の違いなどを説明、商工会議所青年部の活動報告があった。

この後、フィリピン、韓国の商工会議所よりそれぞれの青年部の活動報告があった。

若手官僚との交流会開催

平成9年12月2日、首府の垣根を越え、連携を図る若手官僚のメンバー「酒の会」との交流会を開催しました。本会は商青連の年度を超えた事業有志が「連携を考える」ことを目的に地域交流センター（田中栄所長）とお願で到達したものであり、国は第3回目となります。平成6年度出向産業から約34名と官僚の皆さん13名の方々に出席頂き、高調講演の後、各省庁での自分の取り組み内容と自己紹介と共に話をして頂きました。また、商青連側も自分の地域に関する連携事業の説明をし、理解を求めました。国の国土開発企画も連携の制定から具体的な内容に絞り、パートナーシップ事業として地域の主体性を重んじて連携を図ろうとしています。各省庁の出席者の皆様を期待する意見があり、また、次年度も商青連産業に本交流会のお知らせを致しますので、日時をお確かめのうえご参加下さい。

平成10年度各委員会の事業計画

委員会名	検討事項
総務委員会	①会員総会、役員会の開催 ②日商幹部との懇談会 ③規約の見直し ④ブロック大会開催への助言 ⑤商青連活動の情報提供と会員拡大
企画委員会	①第18回全国大会（青森）への推進、助言 ②第16回全国会長研修会（今治）の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会、ブロック大会立候補の受理と検討 ⑥その他（他の委員会に属さない事項の検討）
研修委員会	①YEGヤングリーダー研修の企画、開催 ②理事塾の企画、開催
広報委員会	①機関誌「青生」（第25、26号）の発行 ②「石垣」「会議所ニュース」への青年部活動の掲載 ③商青連ホームページの作成 ④ホームページコンクールの開催
特別委員会	⑤YEG連携事業の推進 ⑥地域青新者及びブロック別会員名簿の活用 ⑦小委員会による同業種交流の研究と促進 ⑧「ビジネス交流」の場作りの企画、検討
ブロック代表幹事会議	①ブロック大会開催 ②「ブロック別会員名簿」の作成 ③各地青年部、都道府県連合会、ブロックの活動支援 ④県別、ブロック別連合会議の開催支援 ⑤未加入青年部の加入促進 ⑥青年部員連の設置促進 ⑦ブロック内への商青連活動の情報提供

「まってらはんで、青森さ、こいへ!!」

第18回全国大会青森大会 実行委員長　後藤　薫

私たち青森商工会議所青年部は、「ようこそ、どきどきする、ほっとする、感動シティ青森」を相言葉スローガンに掲げ、大会開催への「思い」と「ビジョン」をコンセプトに平成10年11月全国大会・青森大会を開催します。

「思い」では、「全国の仲間に感謝の気持ちを伝えたい」、「地域活性化の礎になる決意を伝えたい」、そして「魅力ないYEGを作るため、互いの切磋琢磨を呼びかけたい」とアピールしました。

青森県は、その自然の豊かさから食べるものにも、そして祭りや歴史、文化などでも全国に誇を後れるものがそろっています。特に5000年以上の昔の縄文集落、三内丸山遺跡が発掘されてからは日本中に縄文ブームを起こしています。それだけでなく何よりも、青森に住んでいる人々のすばらしさ、秘めたるエネルギー、それらを私たち自身が体現して全国に「伝えたい」と思うのです。

「ビジョン」では、「地域と地域、地域内外の結び手」、「市民と市民、市民と行政との結び手」、「地域政策と実行の結び手」、そして「公議所の機能と会員、他と異と地域市民の結び手」となることを宣言しました。

ともすれば、悪団体視されることなくのポ分手と言われる青森の人々、これまで地域内外と手を結び、そうすることによって他で活動するよりもはるかに大きな可能性が得られることを実感しました。全国大会では、青森と全国とを、東北の青森ではなく、日本の青森という位置付けで「結びたい」と強く思うのです。

どんなに素晴らしい計画でも、それが具体化され実行されなければ画餅にすぎません。私たちは自ら発案したことを行政に依存するのではなく、私たち自身で実行するよう努めてきました。さらに、全国の仲間に様々な取組み方を学んでいきたいと思います。多くの可能性とともに存在する課題はありますが、それに対することなく向かっていく、そして、「ふなえたい」、そのためのステップとして全国大会を位置付けたいと思うのです。

伝えたい、結びたい、かなえたい。

それぞれの思いがとけあう北のまち、縄文の都市（まち）、青森。

このコンセプトワードのもと、「日本の胎動が響きあう、縄文の森YEG」を到達キャッチフレーズに、平成10年11月5日～7日、おなじ祭りにみられる津軽人のもつエネルギーと、縄文文化の流れをも受け継いで来ていた、東北青森のすばらしさ、この「青森の地」で全国の仲間に是非とも実感してもらいたいと思っています。